

海でつながっている今津浜クリーンアップ (御前浜と甲子園浜の間)

神戸新聞 2018年5月31日

「今津浜をきれいに」

地元小学生 住田君が呼び掛け

西宮市今津西浜町に広がる今津浜の自然を守ろうと、近くに住む今津小学校6年生、住田瑞希君(11)と同市今津久寿川町IIの発案で清掃活動が続いている。今津浜は貴重な生態系が残るが、水門の移設工事が進み、将来は姿を消すことになる。瑞希君は「きれいな浜として最後まで見届けたい」と話し、6月2日に予定する今津浜の清掃で参加を広く呼び掛けている。

(風斗雅博)



住田君は生き物が好きで、幼い頃から父親の聡さん(44)と浜辺で砂遊びや魚釣りをしていた。小

2日に清掃実施

学校に入ると、御前浜や香櫨園浜などの環境を守る活動を続ける市民団体「浜・川・山の自然たんけん隊」の清掃に加わるようになった。

そんな中、自宅から足しげく通ってきた今津浜が気になるようになった。知名度が低く、ごみで荒れ放題の海岸を見かねて3年前、同たんけん隊事務局長の粟



ごみ拾い、外来種の草除去へ

野真造さん(58)に「海はつながっているから今津浜もきれいにしないと」と漏らした。その言葉がきっかけで、団体の清掃は今津浜にも広がりに1度、ごみ拾いや外来種の一年草「アメリカネナシカズラ」の除去を始めた。

今津浜は日本最古といわれる今津灯台のほか、ハマエンドウなどの希少な植物も残る。だが、4年前から県が津波対策として水門や排水機場を浜の周辺に移設する工事を始め、約120㎡に及ぶ砂浜は消滅する。

県の担当者から水門移設工事の説明を受けた住田君は、心中は複雑ながらも工事の必要性は理解できている様子。現在は定期的に外来種の植生の観察も続ける。

6月2日の清掃は今津灯台の前に午前10時に集合。約2時間かけてごみを拾って除草し、植物も観察する。住田君は「たくさんの人に来てもらって今津浜を知ってもらいたい」と話している。粟野さん ☎ 080・6165・0990

家族と今津浜の生き物などを探す
住田瑞希君(右端) 西宮市今津西浜町